

# 【資料5】 デジタル化推進員検討部会について

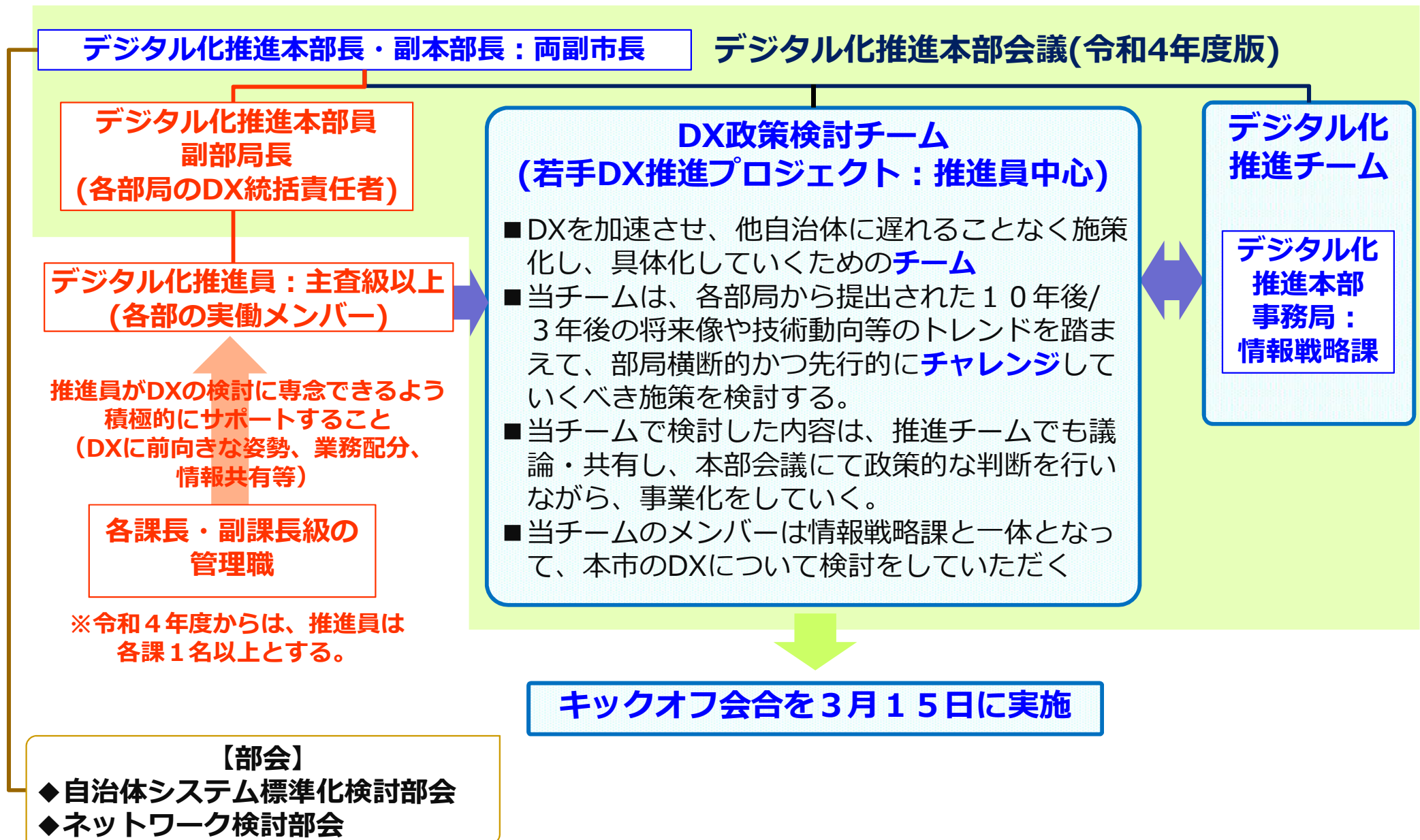
---

デジタル化推進本部事務局  
(経営戦略部 情報戦略課)

## (1)今年度の振り返り

- 令和3年2月に策定した「デジタル強靱化戦略」に基づき、各部局に「デジタル化推進本部員(副部局長)」、各課に「デジタル化推進員」を配置。この体制で各部局・各課のデジタル化の推進を進めてきたところ。
- 各部局においては本部員を中心に部局内にデジタル化検討部会等を設置するなどの取組も進められてきている。
- また、デジタル化推進員向け研修会において、各種ツールの利活用に関する説明会を行ってきたところ、推進員を中心に課内展開等していただいた結果、利用数が増加している。
- このように、本部員及び推進員の配置によりDXに関する取組、検討は進んできたと認識している。
- 一方で、各課との意見交換、ヒアリング等から挙げられた課題として、「本部員・推進員だけではどうしても部局・課内のDXが進みづらい」、「課長や副課長が推進員をサポートする必要がある」との意見をいただいている。
- 市長からもDXは通常業務の1つの認識で、担当を明確にして取り組んでいくことと指示がある中で、次年度以降はそれが実施できるような体制にしていくことが必要であると認識している。

### 令和4年度の体制のイメージについて



#### デジタル化推進本部長・副本部長：両副市長

##### デジタル化推進本部長：副本部長 各部署のDX統括責任者

- 各部署におけるDXのリーダーである。令和3年9月30日に実施したデジタル化推進員研修で提示した「DX成功に向けた心得」を改めて意識していただきたい。
- 国の動向、デジタル技術の動向等を踏まえ、10年後の将来像/3年後の将来像を常に更新していく意識をもっていただき、各年度において実施すべき事項を明確にしていきたい。
- また、市全体のDX推進に向けて、担当部署以外にも目を向け、全庁を俯瞰して幅広い発想や提言をいただきたい。

##### デジタル化推進員：主査級以上 各部の実働メンバー

※各課に配置する推進員の人数は部署内・課内での判断にお任せいたします。少なくとも各課1名は配置。

- 部署の10年後の将来像/3年後の将来像を踏まえ、各課におけるDXの推進に向けたアイデアの提案。
- 研修や各種セミナー、関係府省庁・民間企業等の動向の把握をしていただきたい。
- 特に、関係府省庁の動向(補助金や実証事業等について)については把握をしていただきたい。

#### 積極的なサポート

##### 各課長・副課長級の管理職

- 令和3年9月30日に実施したデジタル化推進員研修で提示した「DX成功に向けた心得」を改めて意識していただきたい。
- 国の動向、デジタル技術の動向等を踏まえ、DXに関する取組に否定的になることなく、推進員のアイデアや日頃の疑問を前向きに捉え、業務経験から、検討内容を洗練・昇華いただきたい。
- 部署の10年後の将来像/3年後の将来像を念頭に、各課で実施すべきDXの方向性やマイルストーン（いつまでに何をやるか）を明示し、それらを意識しながら、各種取組を着実に実施していただきたい。
- DXの検討は本来業務であり、課員の業務が平準化されるように、業務分担を示していただきたい。
- 特に、関係府省庁の動向(補助金や実証事業等について)を把握し、活用可能性等を意識していただくよう、アンテナを高くしていただきたい。

### 1 デジタル化推進員による部会設置の目的

- デジタル化推進員の持っている知識やアイデアをフルに活用し、本市の将来におけるDXがより明るく、面白く、市民・事業者・職員にとっていいものとなるような取組を進めていきたい。
- そこで、推進員が活発かつ積極的に議論・検討のできる環境を構築したく、部会の設置を進めていきたい。

### 2 部会設置及び議論等における視点

#### ①時間的視点

- ・目の前(1～2年程度の将来)の課題解決ではなく、5～10年程度の先を見た検討を行う。

#### ②市民サービスの向上

- ・「市民サービスの向上」を念頭に、それに直結するような取組を議論。市民サービスの質の一定の統一化を意識する。

#### ③内部事務の効率化・投資効果

- ・①・②の整理にあたり、職員の負担軽減や投資効果を念頭に置きながら検討を行う。

### 3 デジタル化推進員との意見交換の具体的な進め方

#### 【議論における前提】

- 部会で検討した内容は、ボトムアップ的に本部長・本部員へインプットし、組織全体としてのDX・業務改善へつなげる。
- 各部局には「新たな市役所の創造」、「市役所のリデザイン」を強く意識し、本部会のアウトプットに積極的に協力していただきたい。

#### (1)ステップ1：デジタル化推進員からの意見募集：終了

- デジタル化推進員からDXに関するアイデア等の意見募集(10月中を予定)を行います。その中から今後の施策につながりそうな意見をピックアップ。それらの内容を踏まえて部会の体制等を整理いたします。

#### (2)ステップ2：アイデアに対する意見交換：終了

- ピックアップしたアイデアを深堀する意味で、推進員と事務局(※)で意見交換を実施し、テーマ設定に向けたブラッシュアップを行います。意見交換内容は本部会議等で共有します。

※意見交換への参加メンバーについては要検討。例：市長・両副市長×推進員×事務局 等

#### (3)ステップ3：テーマ設定・施策化

- (1)・(2)の議論を踏まえて、深堀・施策化するべきテーマを設定し、推進員及び事務局を中心に議論させていただきます。
- 議論内容については随時、本部会議へ報告し、本部長・本部員からの意見を踏まえ施策化・事業化につなげていきます。

### 4 当面のスケジュールイメージ(下記スケジュールについては今後、調整しながら進めていく予定です。)

- 10月中：推進員からのアイデア募集      ○11月前半：アイデア内容の整理
- 11月後半：アイデアに関する意見交換、部会体制の整理      ○12月以降：部会の設立      ※令和5年度予算要求時までには提案とりまとめ



### <部会設置及び議論等における視点>

#### ①時間的視点

- ・目の前(1～2年程度の将来)の課題解決ではなく、5～10年程度の先を見た検討を行う。

#### ②市民サービスの向上

- ・「市民サービスの向上」を念頭に、それに直結するような取組を議論。市民サービスの質の一定の統一化を意識する。

#### ③内部事務の効率化・投資効果

- ・①・②の整理にあたり、職員の負担軽減や投資効果を念頭に置きながら検討を行う。

### <第5回デジタル化推進本部会議での市長・両副市長の意見>

#### ①太田市長

- ・市町村という枠組みの必要性が無くなる可能性がある。
- ・どういう社会を目指し、その際DXをどう加速・活用するか。
- ・まちづくりのコントローラーは市民(企業含む)。その際、行政の縦割りが邪魔をしないようにすることと、DXの活用をどう連携させるか。
- ・8総の将来像を意識(特に「つながる」「つくる」)

#### ②安田副市長(デジタル化推進本部長)

- ・DXが加速するほど、温かい市役所へ。つながりを意識。
- ・コミュニケーション、データ処理、問題意識能力の向上
- ・DXで余裕を生み出し、新しく楽しい仕事を。

#### ③高井副市長(デジタル化推進副本部長)

- ・市民サービスの視点=マーケットインの視点と業務改革の意識をもってDXを
- ・スマート窓口の実現はマスト
- ・DXの推進においてデータベースの構築は必須
- ・国に対して必要なことは上申すること。

### ◆デジタル化推進員からのアイデア(デジタル市役所など)

#### 1 検討テーマ

##### ◆豊田市版デジタル市役所の構築

#### 2 検討内容

- 様々な技術発展等により、市民の生活や働き方は多様化し、求めるニーズなども様々である。
- このような状況であるにも関わらず、行政が旧態依然のままでいいはずはなく柔軟に考え方を換え、体制を変化・構築していくことが必須。
- そこで、市民側に100%立脚した「豊田市版 デジタル市役所」を構築を目指してはどうか。その中では、例えば、以下のようなことができることを想定。
  - ・24時間、申請・発行が可能
  - ・アバターが簡易な相談には対応
  - ・窓口は一本化され、Amazonのようなマイページで個々に必要な情報の取得、発信が可能
  - ・デジタル選挙
  - ・市民がまちづくりに必要な提案等を行うことができる。
  - ・一気通貫の内部事務改革 等々

#### 3 令和4年度夏頃までの目標

- 豊田市版デジタル市役所の骨格(どんな機能があるかなど)を整理
- 今後、必要な作業や調整事項の整理 等